むきばんだ弥生体験カード 07

土笛づくり体験 ～音階の出る土笛の秘密～

みなさんに音の出る楽器には、どのようなものがあるかたずねたら、どんな楽器を思いうかべますか？

太鼓のように、たたいて音を出す打楽器、琴のように、弦をはじいて音を出す弦楽器、ピアノのように、鍵盤を操作する鍵盤楽器、笛のように、息をふきこんで音を出す管楽器等があげられますね。みなさんにとって一番身近な楽器は、リコーダーでしょうか？

弥生時代にも楽器が存在していたことが、多くの出土品から分かっています。その中の一つに「土笛」があります。この土笛には、６つの指あなが開いており、リコーダーと同じように指あなの押さえ方により、様々な音階を出すことができます。弥生人たちも、今のわたしたちと同じように、素敵なメロディーをかなでていたのでしょう。

クイズ

鳥取県内で土笛が見つかっているのは、次の市町村のうちどれでしょう。

①境港市　②米子市　③倉吉市　④鳥取市　⇒　（　　）

では、とう芸用ねん土を使って、音階の出る土笛を作り、弥生時代の素敵な音色を再現してみましょう。
（完成した後、電気釜で焼き上げるため、完成までに約１ヶ月かかります。）

チャレンジしよう　「土笛づくり」に挑戦しよう！

【準備】ねん土、ねん土板、丸棒、かき出しベラ、竹ぐし、たこ糸、しか革

❶ねん土を丸めて卵形にします。息をふきこむ歌口一つと指あなを前面に４つ、裏面に２つ作るため、写真のように丸棒で穴を開けます。

❷糸を使って、歌口の円を半分に切るようにして、前面と裏面をたて半分に切断します。

❸全体の厚さが６㎜くらいになるように竹ぐしで印をつけ、かき出しベラで内側のねん土をくりぬきます。

❹くりぬいたものを卵形にもどすためにはり合せます。

❺合わせ目に竹ぐしで傷をつけ、上から水でやわらかくしたねん土をこすりつけて、のり状にします。

❻しっかりとはり合わせます。接合面の上にもねん土を盛り付けます。

最後の仕上げに表面をしか革でこすり、表面をなめらかにします。そして、音が出るように歌口を竹べら等でうすくけずり、音が出ることを確認しましょう。竹ぐしで自分の好きな模様を入れて完成です。

豆知識1 土笛のふき方

❶歌口に下くちびるをあてます。紙を一枚はさんだつもりで、口を平べったく、小さく開けます。
❷歌口のおくに息をぶつけるように、息をするどくふきこみます。
❸くちびるを当てる角度を変えたり、口の位置を前後に動かしたりして、音のよく出るふき方を探します。
❹音が最も鳴りやすいのは、指あなを全部ふさいだときです。指あなを一つ開けるごとに音が高くなります。あなが大きければ音の上がり方も大きくなるので、開けるあなを選びながら、ドレミの音階で出るように調整します。

豆知識2 鳥取県内で見つかった土笛

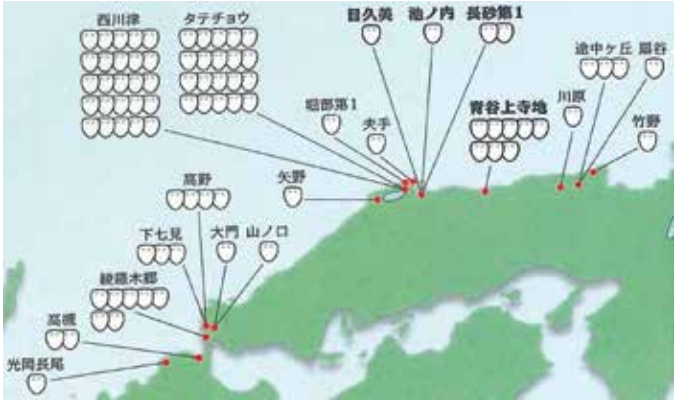

図　出典 鳥取県教育委員会2003「弥生時代からのメッセージ」より転載

鳥取県内では、米子市の目久美遺跡と鳥取市の青谷上寺地遺跡等で土笛が見つかっています。弥生時代の土笛は、山口県下関周辺と島根県松江市から鳥取県米子市にかけての一帯、京都府丹後半島の一帯の３カ所で集中的に出土しており、九州から近畿の日本海沿岸でしか見つかっていません。その半分以上が、この近辺の松江市から米子市の一帯で出土しています。

目久美遺跡の土笛
写真　鳥取県埋蔵文化財センター提供

豆知識3 弥生の音色

弥生時代の遺跡から出土する音を鳴らす道具には、琴・土笛・銅鐸等があります。鳥取市青谷上寺地遺跡からは、土笛のほかに琴や銅鐸も出土しており、特に琴の見つかった数では国内で最多です。

この琴の中に完全に復元できるものが一つあり、これを元に復元製作をしたところ、きちんとした音色をかなでることができました。これらの琴には、当時、神としてあがめられたという、月や太陽、サメや動物の絵がえがかれていたことから、神に対して豊かな実りをいのるために琴を演奏したのではないかと考えられています。銅鐸も貴重なものであったことから考えると、これらの楽器は、音楽を楽しむというよりは、まつり等の行事に使われていたのでしょう。

ほぼ完全な形で見つかった箱型の琴。

５匹の動物が描かれた琴の板。シカ？、イヌ？、ヒツジ？の３種類の動物の絵が刻まれています。

写真　鳥取県埋蔵文化財センター提供

※みなさん、きれいな音色の出る土笛ができましたか？　今日の「土笛作り」体験で発見したことやわかったこと等、感想をまとめてみましょう。

クイズの答え…②④